

水産・農産の優れた資源・取組みを有すが、
 ◆優れた資源も地域にとっては「あたり前」
 ◆何が差別化、PRになるのか分からない

異業種「お見合」のワークショップ形式の議論により、地域資源を再評価し、パンフレット「雄武の宝」として取り纏め、地域内外に発信した。また、その趣旨を更に発展すべく、宝を体感可能なイベントに展開させた。

「海・水産」と「高工・観光」のテーマ
 雄武の宝に商品力をつける



「まち・人づくり」と「海・水産」のテーマ
 雄武の宝を学ばせる・伝える



「高工・観光」と「まち・人づくり」のテーマ
 他地域にPRする・もてなす



食の安全を確保し、第三者機関のお墨付きを得ることが対外的に重要。そして、農水のセット販売など売り方・PRの工夫、食べる場づくりを行い、雄武に来てもらうことが大事。
 まず、「雄武の宝」とは？これを明確にする必要が有る。

まず、宝に変えていくものも含め、「雄武の宝」を明確にする。そして、その宝の本質を大人がまず理解しなければ、子供に伝えられる善が無い。体験学習しつつも、牛の腹に子が居ないと乳が出ないところから伝える深いものが必要で有る。

まず、地元が雄武の良さを認識する必要が有る。サケ一つでも、美味しいサケの産地なのに、上手く料理できないことで有名な程。誰が何処で何をPRするか、場づくりも含め連携が重要。友好都市を、もっと上手く活用できると良いと思う。



「雄武の宝」を感じる・食す・学ぶ
 パンフレットの作成・配布



異業種による「お見合」ワークショップでの議論

ここがポイント！

- ① 地域内の異業種「お見合」による議論により、域内の斬新な視点による資源の再評価へと繋がり、自然と異業種連携が図られた。
- ② 地域資源の明確化をきっかけに、イベント展開等の自主自立に繋がった。



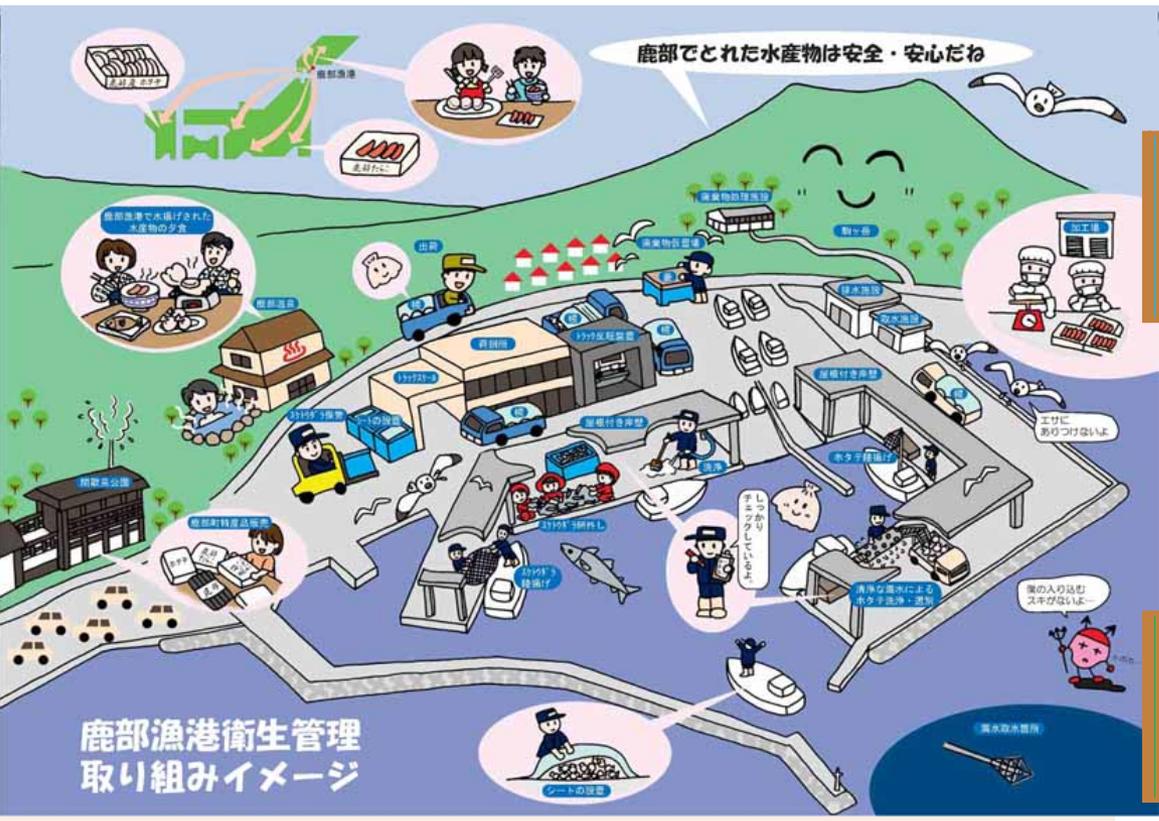
「雄武の宝」を体感可能なイベント

衛生管理をきっかけとした地域振興の取組例 【鹿部町「漁港安心・安全革命」】



他産地との差別化から漁港の衛生管理に着手
 ◆投資に見合う効果が得られるのか
 ◆温泉をはじめ優れた地域資源を有す

漁港の衛生管理強化の取組みをきっかけに、衛生管理を核とした地域振興策「鹿部町漁港安心・安全革命」を策定。関係機関が連携し、各種取組み等についてSNSを活用した情報発信も実施中。



鹿部町「漁港安心・安全革命」の取組みイメージ図



情報発信

地域連携



SNSによる取組みの情報発信

ここがポイント！

- ①衛生管理施設整備に要する地元負担について、投資に見合った効果が得られるよう地域ぐるみで検討した。
- ②地域が向かうべき取組みイメージ図を、取組み早期の段階からHP等で公開し、地域理解・協力を促進した。